

VII 調査から見えてくる課題と成果

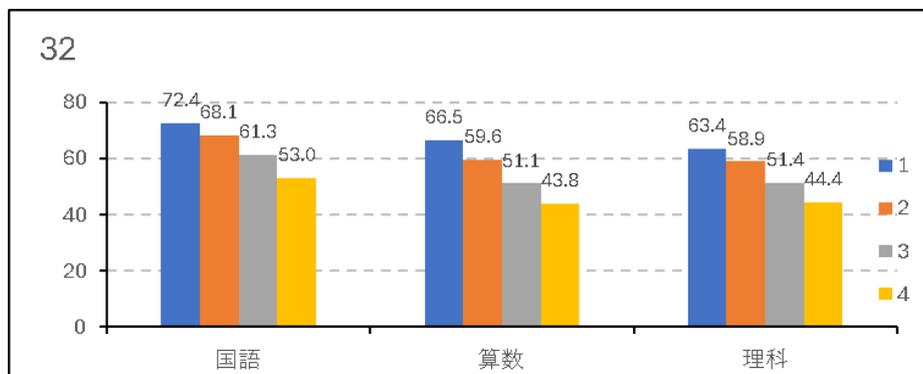
質問調査の分析から

クロス分析：児童生徒質問調査 × 正答率

【小学校】

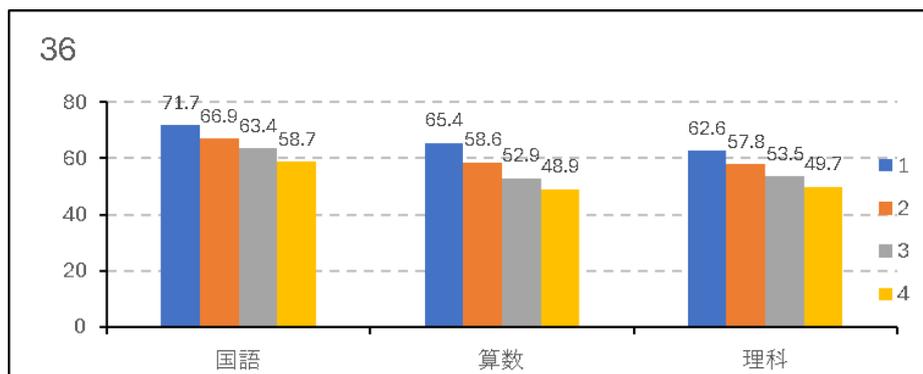
○以下の質問項目に肯定的に回答している児童ほど、**3教科とも正答率が高い傾向**が見られた。

Q32：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた【自己調整】



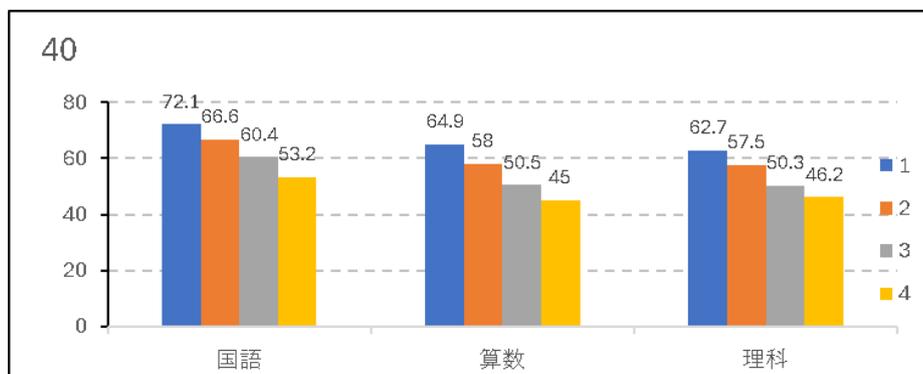
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか【振り返り】



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【探究】

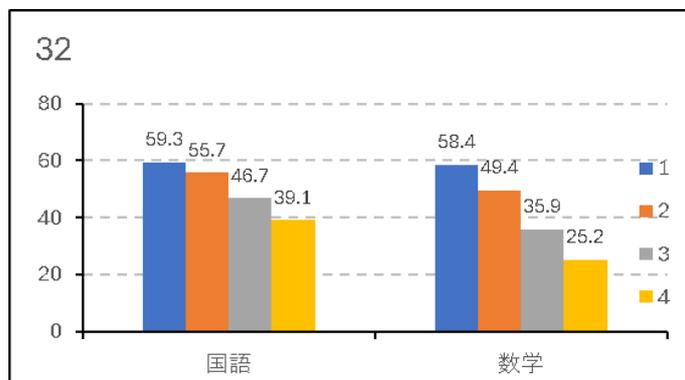


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

【中学校】

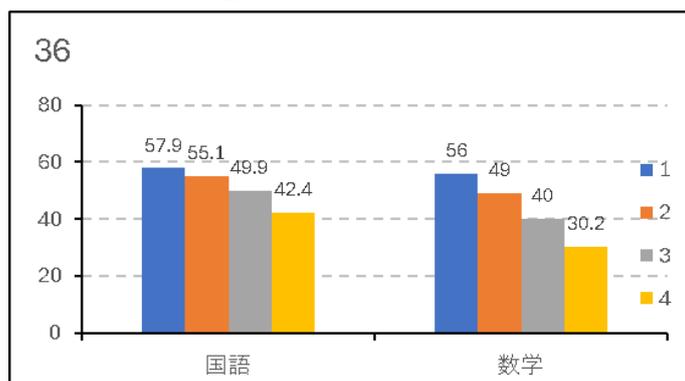
○以下の質問項目に肯定的に回答している生徒ほど、2教科とも正答率が高い傾向が見られた。
 (中学校理科の結果はIRTスコアで示されているため、表示していません)

Q32：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた【自己調整】



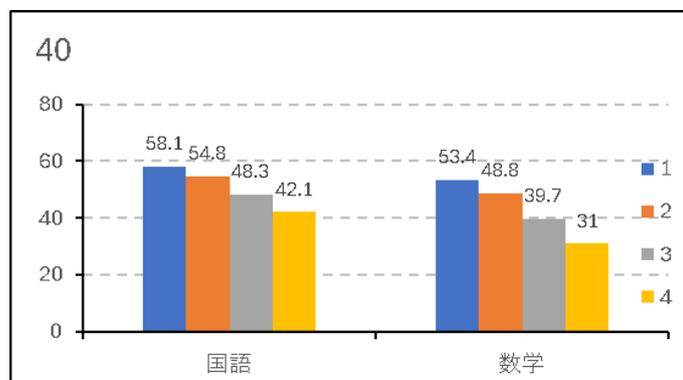
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか【振り返り】



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【探究】

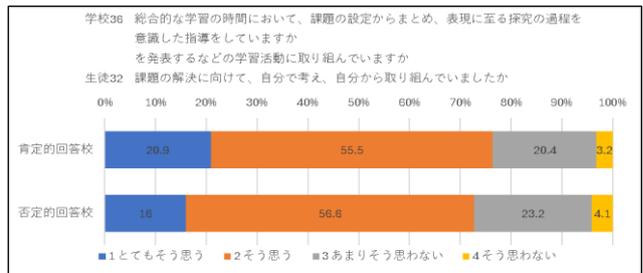
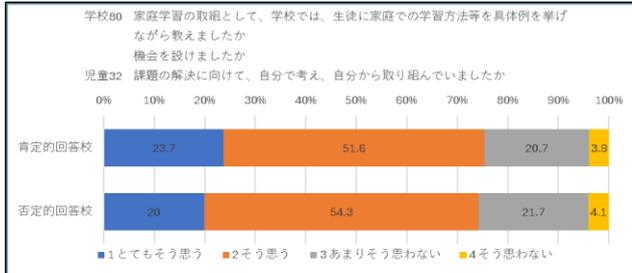


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

クロス分析：学校質問 × 児童生徒質問、児童生徒質問 × 児童生徒質問

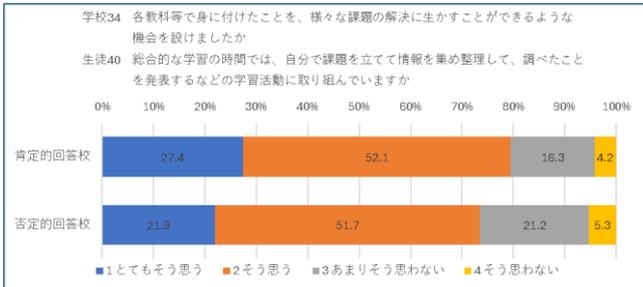
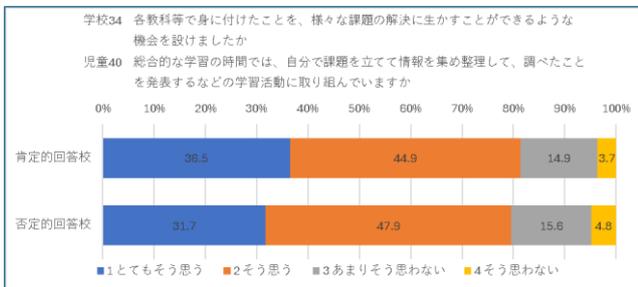
児童生徒質問項目と学校質問項目について分析したところ、次のような様子が見られた。

- 「32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校では「80 家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか」に、中学校では「36 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」に当てはまると回答した学校で高い傾向にあった。



小学校では、学び方や内容のある程度例を挙げて示すことが、中学校では、授業の中で探究の過程を意識して指導することが、児童生徒が主体的に課題の解決に取り組むことにつながるといえる。

- 教科横断的な視点や、探究的な学びの視点を取り入れることが意識されている学校（例：「学校34：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」）では、「児童生徒40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して当てはまると回答している児童生徒が多い。



また、「児童生徒40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して当てはまると回答している児童生徒は、「児童生徒32：課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に当てはまると回答している児童生徒が多い。

